

小児における在宅人工換気療法の問題点

(分担研究：新生児・乳児の退院後の在宅
ケアシステムに関する研究)

研究協力者 船戸正久

共同研究者 島田誠一、玉井 普

要約：人工換気療法の著しい進歩に伴い、慢性呼吸不全のためNICUや小児科病棟長期の人工呼吸器使用を余儀なくされている患児が増加し大きな問題となってきた。しかし患児が自分の家で家族とともに過ごす機会を持つことは「より人間らしい医療」、「生命の質」という点からみて、本人にとっても家族にとっても非常に重要な事である。今回当院での在宅人工換気療法の実践を通して、家族の立場からの在宅人工換気療法における問題点について検討を行った。家族にとって最も不安に感じているのは経済的問題と看護態勢、及びそのサポートの問題であった。

見出し語：在宅医療システム、在宅人工換気療法、慢性呼吸不全

研究目的：在宅人工換気療法の実践を通して、そのかかえる問題点を明らかにし、より望ましい在宅医療システムを模索する。

対象及び方法：6症例を対象に、バッテリー付き人工呼吸器を使用し、自宅、公園等へ外出・外泊を行った。このなかで、家族の意見を基にした在宅人工換気療法についての問題点をあげ分析を行った。

結果：60回の外出、外泊による在宅人工換気療法を行った。全ての外出及び外泊において特にトラブルはみられなかった。

家族へのアンケート調査では、在宅人工換気療法自体についての悪い点の指摘はなかった。これに対し在宅人工換気療法を施行して良かった点が数多く挙げられていた。また家族の側からの在宅人工換気療法における問題点は多岐にわたって挙げられていた。

考察：在宅人工換気療法の最大の利点の1つは患児の精神発達、社会性の発達に大いに寄与することである。特に意識の明瞭な児において人間形成の重要な時期に、自然や家族との接触を計ることは大切であり、在宅人工換気療法はその一翼を担っている。医学的管理の面での教

育が十分に行われていれば、患児の受ける医学レベルを落すことなく、家族のみのケアによる在宅人工換気療法も十分に可能であった。アンケート結果からも、在宅人工換気療法は児自身にも、家族にも良い影響を与えていると考えられた。

家族の立場からの在宅人工換気療法の問題点として、まず医療・保険制度の問題が挙げられる。在宅人工換気療法が保険適応となっていない事、長期外泊が認められない事等が指摘されていた。福祉の面では医療器具貸与制度などの改革を望んでいた。これらの結果として、高額の自己負担が増えるという経済上の問題が家族にとっての大きな障害であった。また在宅ケアにおいては看護態勢、そのサポート体制も大きな問題であった。更に兄弟姉妹との関係、障害者問題など社会生活での問題点が挙げられていた。しかし外出・外泊だけでは患児の成長にとっても自と限界があり、一部ではあるが、何回

もの外泊で自信をつけた家族は完全な在宅人工換気療法を目指している。将来、公的なレベルでの経済的援助体制、社会的援助体制が充実すれば、在宅人工換気療法は益々重要になると思われる。

- 参考文献：1) 島田誠一、玉井 普、船戸正久：小児における在宅人工換気療法の試み、脳と発達、21;557, 1989
- 2) 平本弘富美、他：人工呼吸器の子らを戸外へ家族のもとへ、バクバク、№1-№4、1989
- 3) 仁志田博司：障害を有するNICU退院児のホームケアシステムの現状と問題点、小児科臨床、41:691, 1988
- 4) Goldberg A I, Faure EAM, Vaughn C J, Snarski R S, Seleny F L.: Home care for life-supported persons: An approach to program development, J Pediatr, 104:785, 1984



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:人工換気療法の著しい進歩に伴い、慢性呼吸不全のためNICUや小児科病棟長期の人工呼吸器使用を余儀なくされている患児が増加し大きな問題となってきた。しかし患児が自分の家で家族とともに過ごす機会を持つことは「より人間らしい医療」、「生命の質」という点からみて、本人にとっても家族にとっても非常に重要な事である。今回当院での在宅人工換気療法の実践を通して、家族の立場からの在宅人工換気療法における問題点について検討を行った。家族にとって最も不安に感じているのは経済的問題と看護態勢、及びそのサポートの問題であった。